

青谷町総合支所「鳥取市新地域振興ビジョン」推進計画 進捗チェック状況

項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	推進期間			短期(～29年度)における総括		H30年度				R元年度					
			短期	中期	長期	成果(何をどれだけ)	次年度以降への課題・方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性
			～29年度	～R元年度	～R5年度												
①地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり	①青谷地区を中心としたコンパクトなまちづくりを進め、憩いや賑わいの空間を創出する。	地域生活拠点の整備 【生活基盤の充実】 【工業の振興】	○青谷憩いの場整備等	○青谷憩いの場整備等		広場測量設計を完了。旧公民館及び講堂の解体撤去を完了。	公園又は、コミュニティ広場として利用するかの検討が必要。広場の維持管理について検討する必要あり。	・青谷中央広場整備事業実施 3,700㎡ ・福井田川親水護岸整備事業 L=100m ・東町排水ポンプ1基増設・水路整備 次年度に繰越	93,200	53,456	達成	継続	・青谷中央広場整備 R1年7月から供用開始 ・東町排水ポンプ1基増設・水路整備L=186m R2年3月完成	80,917	82,949	A.達成	5.休止、終了
			○J.R駅前広場周辺整備等	○J.R駅前広場周辺整備等		・広場測量設計業務を完了。 ・バス待合所建築設計を完了。 ・駐在所の解体撤去を完了。	バス待合所の有効的な活用を検討する必要がある。	・J.R青谷駅前広場整備事業 1期工事 実施済み 1400㎡ ・J.R青谷駅前バス待合所整備事業工事中 次年度に繰越			達成	継続	・J.R青谷駅前広場整備事業 2期工事 1400㎡ R2年3月完成 ・J.R青谷駅前バス待合所整備事業 56㎡ R1年5月完成 6月から供用開始 維持管理委託契約済			A.達成	5.休止、終了
			○企業誘致	○企業誘致	○企業誘致	西部地域三町で候補地をピックアップし、工業団地造成における諸課題に対する関係課の意見聴取を行いながら、候補地を検討している。企業立地・支援課と連携し、企業誘致に努めている。	西部三町で工業団地設置における諸課題を検討し、候補地の検討に努める。	工業団地設置における諸課題や候補地の検討	-	-	未達	継続	工業団地設置における諸課題や候補地の検討	-	-	C.未達	3.現状維持
②全体的に人口が減少し高齢化が進む状況の中、各地区公民館は地区の特性を活かした事業に取り組んでいく。	②全体的に人口が減少し高齢化が進む状況の中、各地区公民館は地区の特性を活かした事業に取り組んでいく。	地域活性化イベントの再構築 【協働のまちづくりの推進】	○鳥取市西いなば地域振興グラウンドデザインとの連携 ○地域活性化イベントの再考・定着	○地域活性化イベントの再考・定着	○地域活性化イベントの再考・定着	因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭 ・和紙イベントをとおして因州和紙をPRし、地区住民あがての日置地区の農産物販売や食のバザー等で和紙産地の魅力を発信した。 青谷ようこそ市場 ・青谷ようこそ市場は、支所が事務局となっており、参加団体の認識が低かったが、H29年度より各回の担当団体を決め、自主性を高める試みを実施。一定の効果があったと判断。 ・1年目のH28年度より2年目のH29年度は来場者増。	因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭 ・因州和紙は、地域の地場産業であるとともに、鳥取県を代表する伝統工芸品であることから、いかにその魅力を発信し、集客するか、企画内容、PR方法を検討する必要あり。 青谷ようこそ市場 ・イベント客は、町内者が占める割合が多く、町外からの集客を促す工夫が必要。 ・将来的には、一定規模の自主財源を確保する工夫も必要と考える。 ・支所に代わり、中心的役割を果たす自主団体の育成を図る。	伝統産業である因州和紙の産地強化と青谷町の賑わい創出を目的としたイベントを開催 因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭を開催 11/11 来場者1,000人 ・青谷ようこそ市場を開催。 6/3 ようこそ館前広場 800人 7/1 夏泊漁港 1,000人 8/5 かちべ伝承館(伝承館祭りと共催)800人 9/2 青谷町総合支所周辺(青谷上寺地遺跡まつり)1,000人(※10/7は中止) 11/24 あおいちウォーキング「山陰道ウォーキング」開催 200人 12/15イルミネーション点灯式開催 500人	2,850	2,850	達成	継続	因州和紙の産地強化と青谷町の賑わい創出を目的としたイベント開催支援 ・因州和紙産地強化事業 11/17 因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭を開催。書道パフォーマンス、三稜苗の植え付け等で因州和紙をPR 来場者 1,100人 10/22 道の駅気楽里で紙漉き体験イベント 等を実施	2,850	2,850	B.概ね達成	3.現状維持
			○各地区のまちづくりリーダーの発掘 ○各地区のまちづくりリーダーの育成 ○各地区公民館周辺整備検討	○各地区のまちづくりリーダーの育成 ○各地区公民館周辺整備検討	○まちづくりリーダーの発掘・育成 ○まちづくり団体の育成 ○まちづくり協議会組織の充実	・ふるさと元氣塾に頼るばかりではなく地域の元気を創出するためには、地域での取組が必要であるという意識をもつためのワークショップ等の地道な取組が必要。 ・地域活性化推進事業、青谷地域にぎわい創出事業を通じて地域活動団体を支援 ・Iloveあおや37メンバーズによる「イラストでまちおこしフォーラム」7/29 ・とっとりふるさと元氣塾「民泊に取組み地域を活性化」8/23 68人 ・とっとりふるさと元氣塾「防災と地域共生社会」1/27 34人	達成	継続	青谷地域づくり連絡協議会(8団体)が、地域活性化推進事業として鳴り砂クリーン作戦、あおや夢灯ろう事業、長尾鼻自然保全活動等を実施 ・5/26とっとりふるさと元氣塾「災害に強い地域づくり」 30人 ・7/26とっとりふるさと元氣塾「けん玉で健康づくりサロン」 46人 ・輝く中山間地域創出事業 ソフト事業:Iloveあおや37メンバーズによる「あおやガイドマップ」作成(6,000部) 里山交流事業:日置谷幸せの里づくり協議会と岩倉地区の交流 4回	1,130	1,130	480	100	B.概ね達成	2.改善継続		
③青谷高等学校は、特色のある取組や地域との繋がりを強化に取り組む。	③青谷高等学校は、特色のある取組や地域との繋がりを強化に取り組む。	①「卓球のまち青谷」の復活 ②国際交流事業の継続・拡大 ③保育所、小中高との連携強化 【教育の充実・郷土愛の醸成】 【スポーツ・レクリエーションの振興】	○青谷高等学校活性化に向けた組織立ち上げ ○「卓球のまち青谷」復活に向けて町民の意識改革・卓球教室・卓球大会の開催 ○各種イベント等への参画 ○留学生の受け入れ ○人材育成(通訳等) ○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○国際交流イベントの推進	○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成)	○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド参画) ○青谷高校の魅力化の取組の支援	①「卓球のまち青谷」の復活 ・卓球教室・青谷オープン卓球などを通して一定の成果があったものとする。 ②国際交流事業 ・交流先の自治体の考えにも影響され、中国太倉市との交流は縮小状況。 ・青谷高等学校も交流先を韓国居昌中央高等学校と限定し、国際交流事業は縮小傾向。 ③保育園、小中高との連携強化 ・地域創造学校等の取組で保育園、小中の連携が図られた。 ・青谷高等学校の活性化を支援する会が平成29年度結成されたことにより今後の地域との連携が期待できる。	①「卓球のまち青谷」の復活 ・イベント客は、町内者が占める割合が多く、町外からの集客を促す工夫が必要。 ・将来的には、一定規模の自主財源を確保する工夫も必要と考える。 ・支所に代わり、中心的役割を果たす自主団体の育成を図る。 ②国際交流事業 ・合併後、取り巻く環境が変化し、状況に応じた取り組む方向性の検討を要する。 ③保育園、小中高との連携強化 ・地域創造学校等の取組継続 ・青谷高等学校の活性化を支援する会の活動強化 ・青谷高等学校の青谷学への協力 青谷学講師等の紹介 青谷地域賑わい創出実行委員会と連携し、青谷学への支援 商工会地域活性化委員会と連携した青谷学ボランティア用オリジナルTシャツ作成	400	400	達成	継続	「卓球のまち青谷」の復活 ・9/28 青谷高校卓球部員による第5回卓球教室開催協力 参加者77人 ・11/9,10 第5回青谷オープン卓球大会の開催支援 男子11チーム、女子9チーム参加 国際交流事業 ・韓国居昌中央委高等学校と青谷高等学校との学校間交流を実施。 ・鳥取市青谷町国際交流協会解散(H31年4月) 青谷高等学校の魅力づくりの取組協力・支援 ・青谷高等学校の活性化を支援する会と連携し、9/12「高校生だっぴ」に協力 ・10/29 地域課題研究「あおこうまるしえ」に協力 ・青谷地域賑わい創出実行委員会と連携し、青谷学、地域課題研究の支援(青谷高校あおいちボランティア参加6回) 保育園、小中高の連携強化 ・地域でどのような子どもを育てるかという目標で活動している青谷中学校区地域創造学校運営協議会の取組に協力	400	400	B.概ね達成	3.現状維持	
			○地場産業の現状把握	○地場産業の現状把握	市民活動を通し、特産物の販売及びふるさと納税商品などへ販路拡大をPR。 ダイハツ工業生活協同組合との特産物の販売、取引を行った。	市民活動を通し特産物の販売及びふるさと納税商品などへ販路拡大をPR ・池田市民カーニバル(農業公社、支所)(8/25) ・池田市商業祭(公社、支所)(10/27,28) ・池田市農業祭(公社、農業者)(11/17,18) ・池田市ふるさと納税の謝礼品に利用 ・池田ダイハツ工業生活協同組合への特産物販売	達成	継続	市民活動を通し特産物の販売及び販路拡大をPR ・8/24 池田市いらっしやいフェスティバル(青谷ようこそ館、支所) ・10/26,27 池田市商業祭(青谷ようこそ館、支所) ・11/16,17 池田市農業祭(青谷ようこそ館、農業者、支所) ・池田ダイハツ工業生活協同組合への特産物販売	-	-	A.達成	3.現状維持				
			○担い手育成と後継者の確保	○担い手育成と後継者の確保	○担い手育成と後継者の確保	就農舎を中心とした担い手育成。現在、研修生2名が就農の研修中。H30年度に経営継承で就農予定。就農について関係機関の協力により育成指導中。	担い手育成と後継者の確保。	2名が就農の研修を終え、経営継承等で新規就農した。地域おこし協力隊員1名がシイタケ生産の研修中。関係機関の協力で育成指導を行っている。	4,442	4,431	達成	継続	地域おこし協力隊員1名のシイタケ生産研修に対し、関係機関の協力で育成指導を実施	4,283	3,979	B.概ね達成	5.休止、終了

青谷町総合支所「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画 進捗チェック状況

項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	推進期間			短期(～29年度)における総括		H30年度				R元年度										
			短期	中期	長期	成果(何をどれだけ)	次年度以降への課題・方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性					
			～29年度	～R元年度	～R5年度																	
②地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり			○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	例年に比べ時化等の影響もあり漁の回数は減ったが昨年並みの実績はあった。	町内外の人への定置網漁及び朝市の認知度を上げる必要がある。	夏泊朝市の開催とおおいちとの連携(7/1) 夏泊定置網教室の開催(7/1)			達成	継続	・4月から11月 夏泊朝市の開催 開催日数 72日 来客総数 延べ7,200人 1日平均来客数 100人 ・7/7 あおいちとの連携 ・7/7 夏泊定置網教室の開催	—	—	B.概ね達成	4.縮小					
			○ジオ関連ガイドの養成	○ガイド団体が中心となって、青谷町内のジオサイトや歴史文化を案内できるガイドの養成を図る。	○ガイド団体の育成 ○観光ガイド体制の確立及び観光ガイドコースの設定	・ガイド団体の設立はできた。	・単発事業のみでなく、新規ガイド養成に繋げる必要がある。	青谷町ガイドネットワークがボランティアガイドとして活動中			達成	継続	青谷町ガイドネットワーク、観光コンベンション協会と連携してGバスを運行し、ガイド活動を促進 9回実施(6/8,7/20,7/27,9/21,9/28,11/2,11/16,11/23) 延べ参加人数118人	—	—	B.概ね達成	3.現状維持					
			○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備	○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備 ○青谷上寺地史跡公園の運営協力団体の育成	○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備 ○青谷上寺地史跡公園の運営協力団体の設立	青谷上寺地遺跡保存活用協議会への支援が主な活動であったが、活動内容がマンネリ化し、参加者や協力者が増える状況ではなかった。	史跡公園整備がH31年度から開始されるあたり、既存団体の青谷上寺地遺跡を学ぶ会、友の会以外の新たな協力者の参画を図る必要がある。	○青谷上寺地遺跡管理事業 ○青谷上寺地遺跡利活用推進事業 上寺地ものづくり講座(ガラス細工・木工教室)8/18 参加者18名 ボランティア養成講座開催(12/22,1/26,2/16,3/16) 参加者11名		5225	4330	197	81	達成	継続	○青谷上寺地遺跡管理事業 ・青谷上寺地遺跡史跡内除草委託 ・青谷上寺地遺跡保存活用協議会への参画 ○青谷上寺地遺跡利活用推進事業 青谷上寺地遺跡ボランティア講座を実施。9回(6/23,7/19,9/7,10/19,11/8,12/7,1/17,2/14,3/13)	3,280	3,457	342	292	B.概ね達成	3.現状維持
			○情報板等の検討・整備	○地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための修景の検討・整備	○史跡、文化財、自然等地域の素材を活かし、歴史認識、地域への愛着を深める	JR青谷駅前整備に合わせ、観光案内板等の設置を検討した。	JR青谷駅前広場整備事業30年度に伴い、JR青谷駅前観光案内版の移設整備を行う。	JR青谷駅前観光案内版の撤去					未達	継続	・バス待合併設観光案内所の利活用(パンフレット等設置) ・JR青谷駅前観光案内版の移設整備 (R1年10月完成)	280	280	A.達成	5.休止、終了			
③安心・安全なまちづくり	①各集落の自助・共助による推進で「地域を自ら守る」取組を図る。	【地域防災力の向上】	○自主防災組織の体制整備・連携	○自主防災組織の体制整備。 ○自主防災組織訓練の高度化の検討	○自主防災組織の体制整備。 ○自主防災組織訓練の高度化	・自主防災組織の資機材整備補助事業を活用して資機材の充実を図ることができた。 ・訓練実施の自主防災組織数が増えた。	訓練を実施している自主防災組織は多いが、ほぼ消火訓練であり、地震や水害の場合に対応した訓練実施も図る。	・自主防災組織の訓練促進 ・鳥取市自主防災会地域防災力強化補助金(3団体、205千円)等の周知と利活用推進 ・自主防災組織へ避難訓練内容例の提示及び派遣 ・鳥取市防災訓練(青谷会場)9/1は中止			達成	継続	・自主防災組織の訓練促進(27集落、4地区訓練実施) ・鳥取市自主防災会地域防災力強化補助金等の周知と利活用推進(3/31現在8団体、504千円) ・町内自主防災会長、区長を対象に研修会実施 10/15日置、10/16勝部、10/24日置谷、11/18青谷、12/1中郷	—	—	B.概ね達成	3.現状維持					
			○制度の啓発及び地域との連携	○制度の啓発と本事業における地域の役割について地域の理解を深める。	○制度の主旨、地域の役割等について周知を図り、登録を促進する。	登録者数408名	この制度は共助があつて効果を発するものであるが、制度内容が必ずしも理解されていない。制度内容の理解促進が急務。	制度内容の理解と登録の促進 ・各地区座談会 ・青谷町自治連合会研修会 ・民生児童委員会 ・いきいきサロン(2)				達成	継続	・青谷町自治連合会研修会、民生児童委員協議会定例会等の機会を捉えて制度周知と登録励励依頼 ・各地区座談会(6～7月に開催)、いきいきサロン等の機会を捉え、制度周知と登録促進 ・わかりやすい啓発チラシの作成・配付【新規】 <参考> 令和2年3月31日時点の登録者数:367人	—	—	A.達成	1.拡充				
			○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図り、設置を促進する。	利用者数31名	制度について、幅広く周知する。	制度内容の理解と登録の促進 ・各地区座談会 ・青谷町自治連合会研修会で制度説明 ・民生委員へ制度説明と担当地区への啓発依頼 ・各地区座談会で制度周知					達成	継続	・青谷町自治連合会研修会、民生児童委員協議会定例会等の機会を捉えて制度周知と設置励励依頼 ・各地区座談会(6～7月に開催)等の機会を捉え、制度周知と設置促進 <参考> 令和2年3月31日時点の設置者数:27人	—	—	A.達成	1.拡充			
			○青谷町住民の健康・福祉の現状を地域住民へ伝える。	○青谷町住民の健康・福祉の現状について、地域住民の理解を深め、改善のための気づきを促す。	○青谷町住民に、健康・福祉の充実の必要性を伝えるとともに、地域住民と協働してできることを話し合い、取り組んでいく。	・健康教育(グループワーク含む)【6回】を実施し、健康に対する意識づくりを図ることができた。 ・青谷地域振興会議においても、青谷地域の現状を共有し、地域支援の必要性について感じてもらえた。	・様々な機会を捉えて、ネットワーク構築のための土壌づくりを促進していく。	・ネットワーク構築の土壌づくりとして、健康教育等を実施(青谷地域振興会議委員対象(1)、地区の高齢者対象(4)、青谷小学校全児童・教師対象(1)、すくすく保育園園児保護者対象(1)) ・民生委員や福祉事業所等との連携強化					達成	継続	・ネットワーク構築の土壌づくりとして、健康教育等を実施 <新たな取組> 9/1 出前ほっとカフェin青谷の開催 6/15 中学校PTA研修会を活用した啓発活動 など ・民生委員や福祉事業所等との連携強化による居場所(精神障がい者や引きこもりの方等の居場所、子育て中の保護者の居場所)づくりの検討【新規】	—	—	A.達成	1.拡充			
②地域・住民と協働し生活交通の維持確保を図る	持続可能な生活交通の維持確保	【公共交通の確保】		○青谷町地域における生活交通の維持確保																		

青谷町総合支所「鳥取市新市場振興ビジョン」推進計

項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	中期(～令和元年度)における総括		R2年度				備考	担当課	
			成果(何をどれだけ)	次年度以降への課題・方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度			事業の 方向性
①地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり	①青谷地区を中心としたコンパクトなまちづくりを進め、憩いや賑わいの空間を創出する。	地域生活拠点の整備 【生活基盤の充実】 【工業の振興】	計画していた施設整備をすべて完了	施設整備 完了	-	-			R元年度で完了	都市企画課 青谷町総合支所	
			計画していた施設整備をすべて完了	施設整備 完了	-	-			R元年度で完了	都市企画課 青谷町総合支所	
			工業団地設置における諸課題や候補地の検討	工業団地設置における諸課題や候補地の検討に努める。	工業団地設置における諸課題や候補地の検討	-	-			進捗なし	企業立地・支援課 青谷町総合支所
	②全体的に人口が減少高齢化が進む状況の中、各地区公民館は地区の特性を活かした事業に取り組んでいく。	地域活性化イベントの再構築 【協働のまちづくりの推進】	因州和紙産地強化事業 ・因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭を開催。日置地区まちづくり協議会と一緒に実施。チラシの新聞折り込みを行い、町外へPRした。 ・鳥取市産地消費フェア等様々な機会を通して因州和紙をPRした。 ●町内外からの集客の増加に結び付けることができ、「和紙の里ひおき」の新たな活性化イベントの開催、定着による成果を得ることができた。 青谷ようこそ市場 ・町外からの集客を図るため、チラシの新聞折り込みを行い、広くイベントを周知した。 ・青谷上寺地遺跡調査室やかちべ伝承館等の企画団体と連携し、多様なイベントを実施。 ●年度ごとに企画を再検討し、イベント展開の再考を行うとともに、新たな出店者増につなげるなど、青谷地域のイベントとして定着を図ることができた。 述べ出店数 H30年度 77 R元年度 84	因州和紙産地強化事業 ・因州和紙イベント開催を通して、魅力の発信、集客、企画内容、PR方法等について、更に効果的な取組を検討する。 ・技術伝承・後継者育成等因州和紙の産地強化につながる取組を検討する。	伝統産業である因州和紙の産地強化と青谷町の賑わい創出を目的としたイベント開催支援 ・ 因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭を開催(11月) ・青谷ようこそ市場を5回開催。 7月—夏泊漁港 8月—かちべ伝承館 9月—ようこそ広場 10月—青谷町総合支所 12月 青谷ようこそ館前広場 ・ あおいちギャラリー(8/29～9/13) 427人	2,850					青谷町総合支所
			・青谷の地域資源(鳴り砂、因州和紙、青谷上寺地遺跡など)を次世代に継承するため、様々な取組を行う青谷地域づくり連絡協議会への支援を行った。 ・積極的に都市部の地区と交流を図り、活動の輪を広げる団体を支援した。 ●まちづくりに関わる各種団体等の支援を通じて、意識醸成を図る中で、意欲的に取組む団体・リーダーの育成を進めることができた。	・青谷地域の自然や歴史文化の魅力や地域住民に啓発するとともに、保全活動を推進する青谷地域づくり連絡協議会への支援を行う。 ・各地区のまちづくり協議会の組織強化を支援し、リーダーの育成につなげる。	・地域活性化推進事業を通じて地域活動団体を支援 ・各地区のまちづくり協議会組織体制の確認及び課題の把握、情報交換	1130					協働推進課 青谷町総合支所 各地区まちづくり協議会
	③青谷高等学校は、特色のある取組や地域との繋がりが強化に取り組む。	①「卓球のまち青谷」の復活 ②国際交流事業の継続・拡大 ③保育所、小中高との連携強化 【教育の充実・郷土愛の醸成】 【スポーツ・レクリエーションの振興】	「卓球のまち青谷」の復活 卓球教室・青谷オープン卓球大会の開催などを通して、青谷高校卓球部及びOB等の役員協力など、青谷地域住民と一体となって地域再興意識を共有する基盤づくりを進めることができた。	「卓球のまち青谷」の復活 地元住民が卓球にふれあう機会として、オープン卓球大会で開催する講習会への参加促進。	「卓球のまち青谷」の復活 ・青谷高校卓球部員による卓球教室の開催協力 ・ 11/7,8—第6回青谷オープン卓球大会の開催支援	400					青谷町総合支所
			国際交流事業 自治体間による交流事業継続が難しくなる中で、学校教育における国際化の特色づくりの側面から、地域活性化の取組として支援・協力体制を維持・継続に努めた。	高校を中心とした国際交流事業の活動の継続につなげていく。	高校を中心とした国際交流事業活動への協力	-					青谷町総合支所
			青谷高等学校の魅力づくりの取組協力・支援 「青谷高等学校の活性化を支援する会」「青谷地域賑わい創出実行委員会」と連携し、青谷学、地域課題研究の取組を支援する中から、青谷高校の課題研究「青谷木綿の復活」の取組等へ繋げるなど、地域魅力資源の発掘成果を得ることができた。	地域と連携した青谷高等学校の魅力づくりの取組協力・支援 「青谷高等学校の活性化を支援する会」「青谷地域賑わい創出実行委員会」と連携し、青谷学、地域課題研究への継続的な支援。	地域と連携した青谷高等学校の魅力づくりの取組の協力・支援 ・「青谷高等学校の活性化を支援する会」「青谷地域賑わい創出実行委員会」と連携し、青谷学、地域課題研究への継続的な支援	-					青谷町総合支所
			保育園、小中高との連携強化 青谷中学校区地域創造学校運営協議会の取組を継続する中で、保育園、小中高間のつながりを創出し、地域への愛着を育てる相互の連携関係を継続することができた。	青谷中学校区地域創造学校運営協議会の取組に協力し、保育園、小中高との連携を継続する。	保育園、小中高との連携強化 ・「みんなわが子 じげの子 青谷の子」をスローガンに掲げて活動をしている青谷中学校区地域創造学校運営協議会の取組への協力	-					青谷町総合支所
	歴史的資源・自然的資源・農産物を含む地場産業・文化的資源などを道の駅を核として有効活用した取組を進めることが、中山間地域対策に重要であり、住民が誇れるまち・魅力あるまちをめざし交流人口の拡大を図る。	地場産業の育成 【農林水産業の振興】	・市民活動を通し、県外のイベントへ出店し特産物の販売・PRを実施した。 ・県外企業への販路拡大でダイハツ工業生活協同組合との青谷町の特産物の販売、取引を継続している。	・市民活動を通し特産物の販売促進を継続及びさらなる販路拡大。 ・ダイハツ工業生活協同組合との特産物の販売、取引も引き続き行っていく。	市民活動を通し、県外へ特産物の販売・PR及び企業等に販路拡大 ・ 池田市との交流事業を年2回から3回計画 ・池田市ダイハツ工業生活協同組合との特産物販売は継続	-					経済・雇用戦略課 農政企画課 青谷町総合支所
・農業研修生2名が、H29年度に就農研修を終え、H30年に経営継承により新規就農した。 ・H30年度から地域おこし協力隊員1名が原木シタケ生産の研修を開始したが、令和元年度末をもって退職し、2年間の研修を終えた。			研修継続を予定していた地域おこし協力隊員が、急速令和元年度までで活動を中止したため2年度の計画はなくなり、3年度以降に新たな事業に取組めるか再検討する。	引き続き検討	-					林務水産課 農政企画課 青谷町総合支所	

青谷町総合支所「鳥取市新市場振興ビジョン」推進計

項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	中期(～令和元年度)における総括		R2年度				備考	担当課	
			成果(何をどれだけ)	次年度以降への課題・方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度			事業の 方向性
②地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり			夏泊朝市は鳥取県漁協夏泊支所の運営で毎年開催され、集客も安定して認知度も上がってきた。	・夏泊朝市は、実施主体である漁協の方針により事業整理され、令和2年度からは実施されないことになった。定置網漁は継続される。 ・「あおいち」イベントと漁協夏泊支所の協力は継続す方向で協議。	夏泊の定置網漁は継続	—				林務水産課 青谷町総合支所	
			青谷町ガイドネットワークと観光事業マッチング等により、ガイドネットワークの役割を確立し、継続した団体育成につなげることができた。	・引き続き、青谷町ガイドネットワークへの情報提供やガイド活動の活性化について支援を行う。 ・観光ガイドコースの設定。	・青谷町ガイドネットワークへの情報提供やガイド活動の活性化について支援を行う。 ・観光ガイド体制の確立及び観光ガイドコースの設定	—				観光・ジオパーク推進課 青谷町総合支所	
			歴史的資源等を磨き上げ交流人口を増加 【文化財の整備・保存・活用】 【潜在型観光の推進】	・青谷上寺地遺跡保存活用協議会への参画 ・H30年度およびR元年度に青谷上寺地遺跡ボランティア講座を実施し、青谷上寺地遺跡応援団の人材育成を進め、講座を修了したガイド候補者の増を図った。 H30年度:11人 令和元年度:14人	・R2年度から青谷上寺地遺跡の史跡整備工事着手されるにあたり、青谷上寺地遺跡保存活用協議会への支援を行い、連携する。 ・青谷上寺地遺跡ボランティア講座については、R2年度が最終年度だが、人材育成については「青谷上寺地遺跡を学ぶ会」「青谷上寺地遺跡友の会」とも連携し、R3年度以降も継続する方向で働きかけて行く。	○青谷上寺地遺跡管理事業 ・青谷上寺地遺跡史跡内除草委託 ・青谷上寺地遺跡保存活用協議会への支援 ○青谷上寺地遺跡利活用推進事業 青谷上寺地遺跡ボランティア講座を実施(最終年度)。9回 ・受講生14人、7/18、8/22、9/12実施済み	3826 276				文化財課 青谷町総合支所
			JR青谷駅前観光案内版移設整備を完了 ・バス待合所を活用した観光情報提供等の取組により地域情報に触れる場づくりの拡充を図れた。	整備完了		—	—				都市企画課 観光・ジオパーク推進課 青谷町総合支所
			ウォーキングコースに、海岸の景色や神社等を組み込み、青谷町内、県内、県外の参加者に青谷町の魅力をPRした。 ●地域の歴史資源に接するイベントにより、参加者を通じた青谷の魅力発信取組を創出した。	青谷町内からの参加だけではなく、市外、県外からの参加者も多いため、歴史や自然に触れることができ、地域のことを知っていたく効果がある。青谷の魅力を発信できるウォーキングコースの検討。	・あおいちウォーキング ・こぼしまウォーキング(勝部地区)	—					観光・ジオパーク推進課 文化財課 青谷町総合支所
③安心・安全なまちづくり	①各集落の自助・共助による推進で「地域を自ら守る」取組を図る。	自主防災組織の充実と連携 【地域防災力の向上】	資機材の整備と住民への意識啓発の取組により、防災意識の充実と自治会の組織強化につなげた。 鳥取市自主防災会地域防災力強化補助金 R2年3月末現在11団体利用。	訓練を実施している自主防災組織は多いが、ほぼ消火訓練であり、地震や水害の場合に対応した訓練の促進。	・自主防災組織の訓練促進 ・鳥取市自主防災会地域防災力強化補助金等の周知と利活用推進	—				危機管理課 青谷町総合支所	
		避難行動要支援者支援制度への登録啓発(新規登録、追加登録の促進) 【地域防災力の向上】	新規登録者数 H30年度:13人 R元年度:12人	まちづくり協議会等と連携しながら協働のまちづくりを進めるとともに、機会を捉えながら、より一層の周知、登録勧奨等を行う。	・青谷町自治連合会研修会、民生児童委員協議会定例会等の機会を捉えて制度周知と登録勧奨依頼 ・各地区座談会、いきいきサロン等の機会を捉え、制度周知と登録促進 ・啓発チラシの作成・配付	—				危機管理課 地域福祉課 青谷町総合支所	
		ひとり暮らしの高齢者世帯へ「安心ホットライン」設置啓発 【地域包括ケアの推進】	新規設置者数 H30年度:2人 R元年度:1人	機会を捉えながら、より一層の周知、設置勧奨等を行う。	・青谷町自治連合会研修会、民生児童委員協議会定例会等の機会を捉えて制度周知と設置勧奨依頼 ・各地区座談会等の機会を捉え、制度周知と設置促進	—				危機管理課 長寿社会課 青谷町総合支所	
		高齢者・障がい者等を地域で見守り支え合うネットワークづくり 【地域包括ケアの推進】	地域住民が主体となって、2つの居場所づくりに着手	地域福祉力向上の必要性を機会を捉えながら訴えていくとともに、地域住民・まちづくり協議会等と一緒にできることから取り組む。	・ネットワーク構築の土壌づくりとして、民生委員や福祉事業所等との連携強化、地域住民を対象として健康教育等を実施 ・昨年度着手した地域住民主体の2つの居場所が本格的に運営されるよう支援	—				青谷町総合支所 西地域包括支援センター	
		②地域・住民と協働し生活交通の維持確保を図る	持続可能な生活交通の維持確保 【公共交通の確保】	持続可能な生活交通のあり方を行政と地域・住民が協働して検討していく必要があるため、R元年度から、町内の団体や地域の会議等で情報提供を行った。交通政策課が「鳥取市生活交通創生ビジョン」を策定。	青谷地域は、将来路線バスが存続できなくなる可能性が高いので、今から地域の実情に合った持続可能な生活交通のあり方を地域や住民と協働して検討していく。	・青谷地域生活交通対策協議会(仮称)の設立 ・青谷地域における生活交通に関するアンケート調査の実施 ・地域住民等への情報提供	—				交通政策課 青谷町総合支所